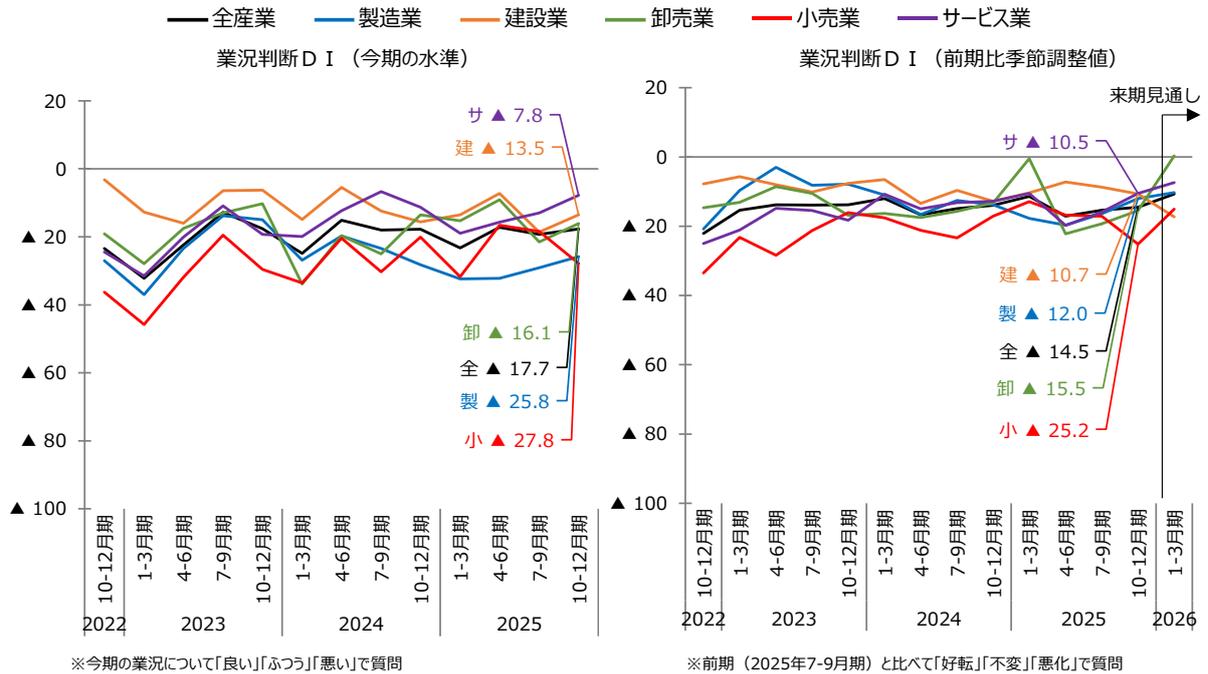


第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 北海道



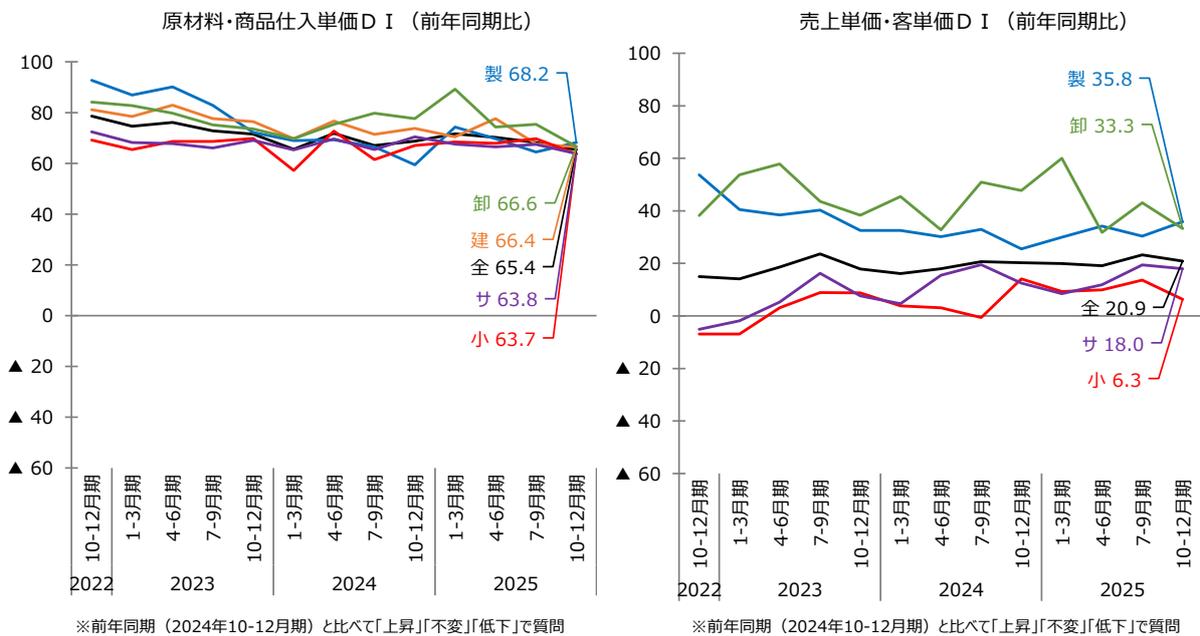
1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年7-9月期）より1.6ポイント増の▲17.7と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、建設業、製造業で上昇し、小売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.8ポイント減の65.4と3期連続して低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、卸売業、小売業、サービス業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.3ポイント減の20.9と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、卸売業、小売業、サービス業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2025年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,838 有効回答企業数：17,901 有効回答率：95.0% うち、北海道：723企業

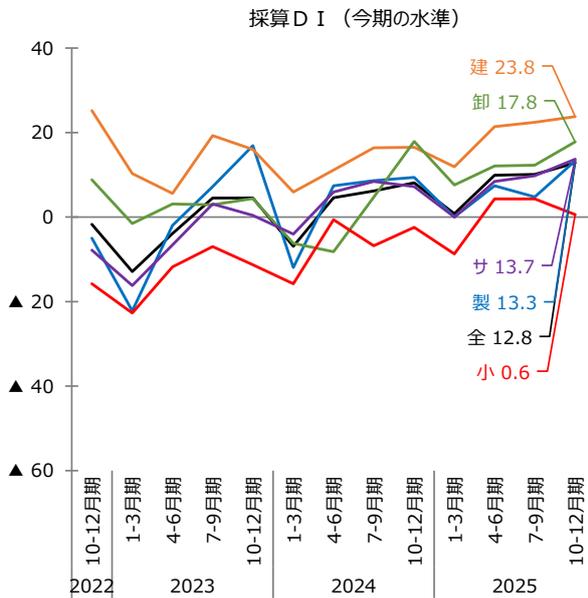
※本資料の集計対象の都道府県は、北海道です。

第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 北海道



3. 採算

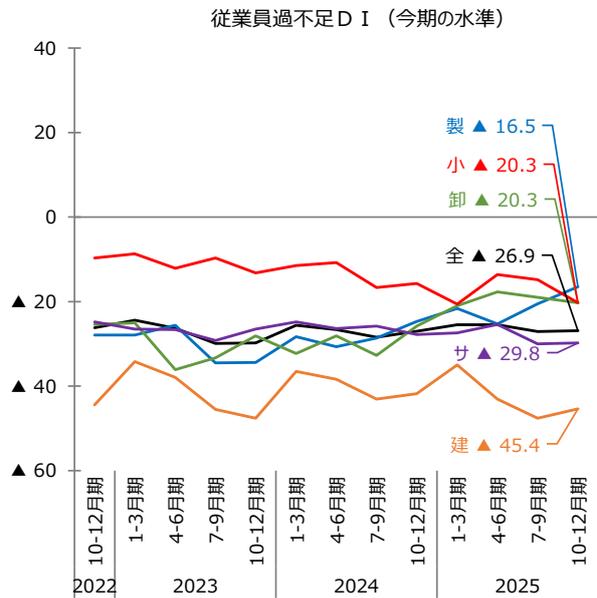
採算DIは、全産業で前期より2.7ポイント増の12.8と3期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、卸売業、サービス業、建設業で上昇し、小売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で0.2ポイント増の▲26.9で3期ぶりにやや上昇した。産業別にみると、製造業、建設業、サービス業で上昇し、小売業、卸売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 北海道の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	物価高と人件費の上昇、資材の値上がりにより利幅が狭くなった。	製造業	野菜缶詰・果実缶詰・農産保存食料品製造業（野菜漬物を除く）
	建設業において、官公・民間を含めた需要の伸び悩みに加えて、従業員確保が非常に困難になっている。	建設業	土木工事業（別掲を除く）
	昨今の物価をはじめとした全ての高騰による影響を受け、物件の先送り・中止となるケースが増えており、受注が減少している。	卸売業	その他の建築材料卸売業
	11月はイベントもなく観光の閑散期であるのと、例年より気温が比較的暖かく降雪も少ないため冬物需要が伸びず来店客が少ない。	小売業	かばん・袋物小売業
	病院関係の取引先が、設備投資を控えている。	サービス業	情報処理サービス業
見直し	今年は昆布も豊富にあり、一定量を確保できたが、現段階で来年の昆布はほぼ見られず、原材料不足が懸念される。	製造業	海藻加工業
	工事受注は昨年並みであるが、資機材、下請施工費の高騰により利益率は減少している状況。管内に管外からの業者が参入しているため、今後の受注は難しくなると思われる。	建設業	一般土木建築工事業
	AIの普及が進む中で、人としての経験値と技術力の必要性の位置づけが課題。	卸売業	電気機械器具卸売業（家庭用電気機械器具を除く）
	個人消費は物価上昇の影響も受け、一部の好調な業種はあるが、依然として厳しい。インバウンド需要が見込める業種は国内客よりも価格に左右されずに買い求めるので利益が見込める。	小売業	他に分類されないその他の小売業
	原材料費の高騰が続いている。今後、値上げの品目数が増加すると、利益が圧迫され収益状況が厳しくなることが予想される。	サービス業	食堂、レストラン（専門料理店を除く）

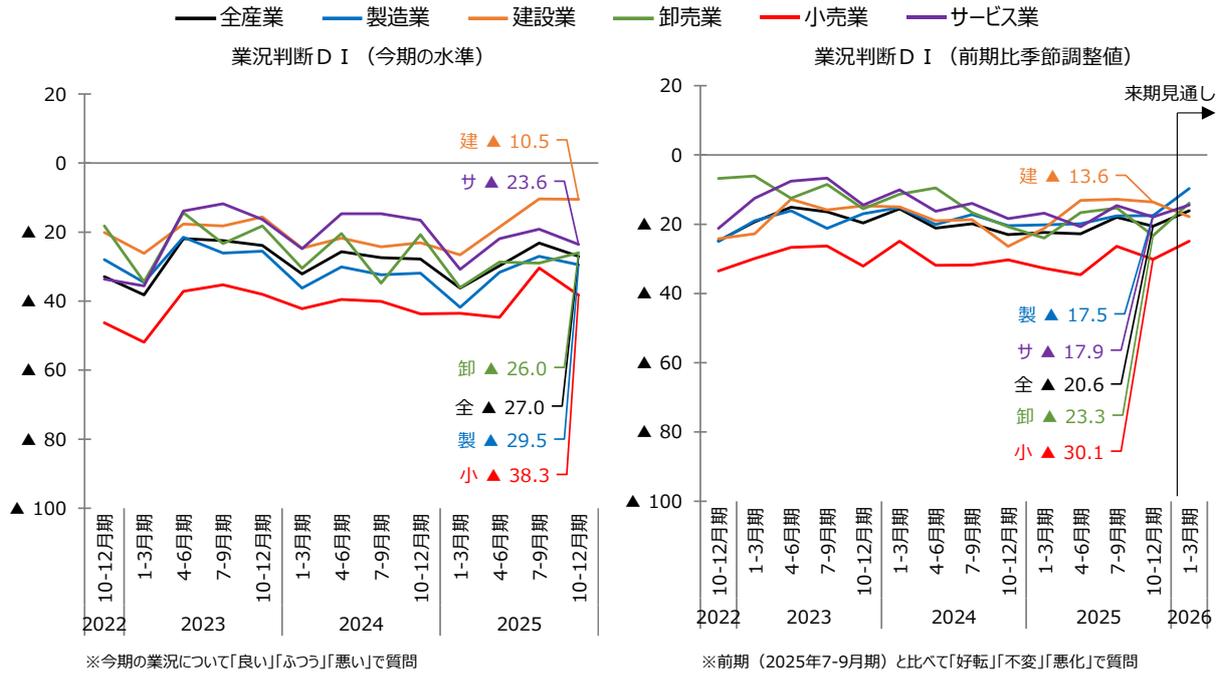
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 東北



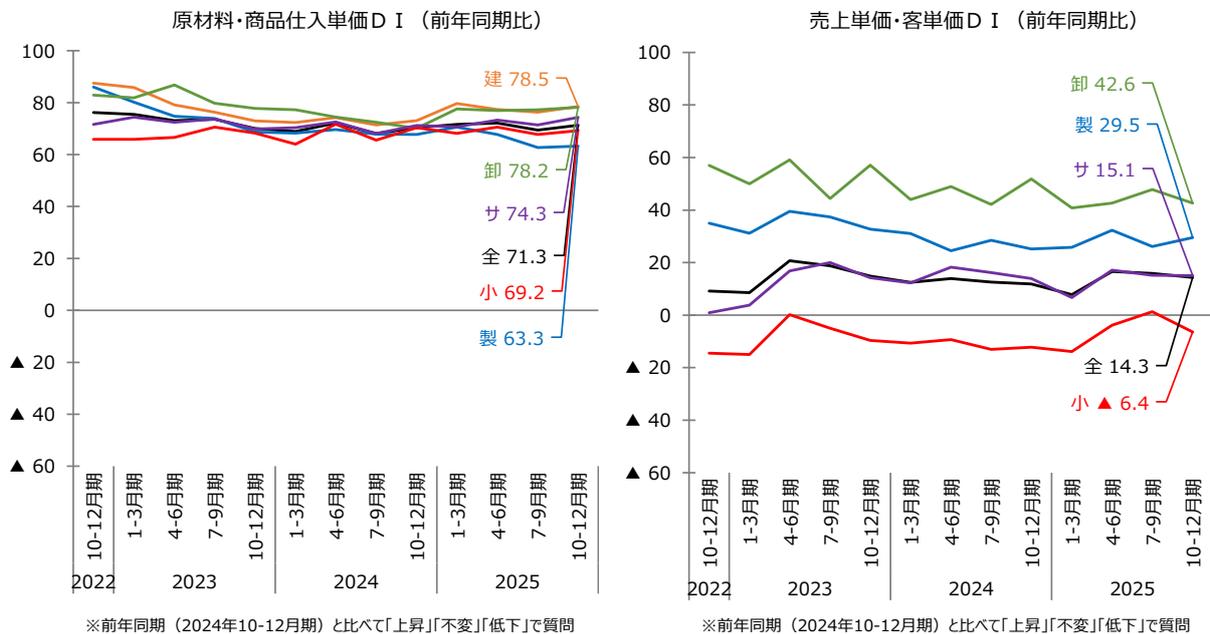
1. 業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年7-9月期）より3.8ポイント減の▲27.0と3期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、小売業、サービス業、製造業、建設業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.9ポイント増の71.3と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべての産業で上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.6ポイント減の14.3と2期連続して低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、小売業、卸売業、サービス業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2025年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,838 有効回答企業数：17,901 有効回答率：95.0% うち、東北：1,824企業

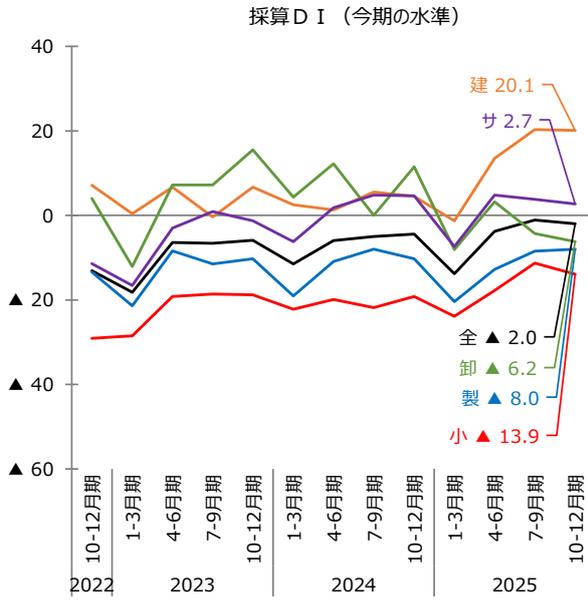
※本資料の集計対象の都道府県は、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県です。

第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 東北



3. 採算

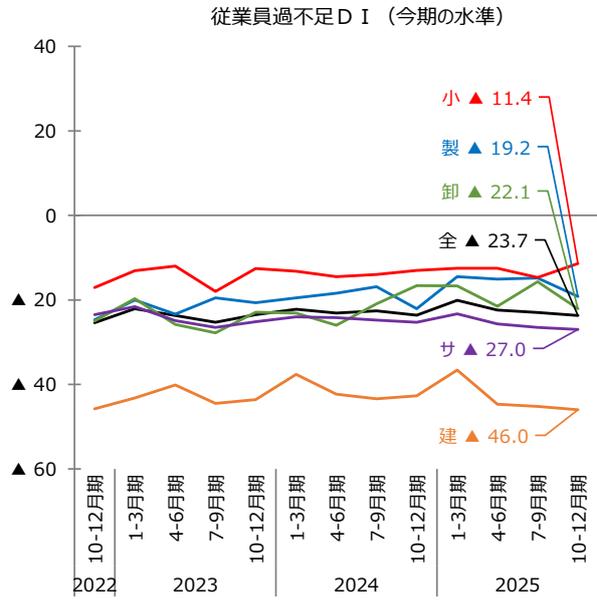
採算DIは、全産業で前期より0.9ポイント減の▲2.0と3期ぶりにやや低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、小売業、卸売業、サービス業、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.7ポイント減の▲23.7と3期連続してやや低下した。産業別にみると、小売業で上昇し、卸売業、製造業、建設業、サービス業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 東北の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	木材製造業の販売対象を一般住宅だけでなく、より広範囲での販売にいかん早く変えられるかがポイントになると考えるが、その転換時を見つけにくい業種である。業界がどんどん小さくなっていく事が心配。	製造業	一般製材業
	建築確認が厳しくなり、新築受注件数が減少している。	建設業	木造建築工事業
	農業従事者の減少及び気温の変化、熊等野生動物の食害により入荷数量が減少。加えて、消費人口の減少と、市場経由率の低下、輸送コスト増等、青果物卸売業界を取りまく環境は厳しい。	卸売業	野菜卸売業
	大手飲料メーカーのシステム障害により商品供給が停止となり、一部商品が品切れという現状で、この期間の売り上げが減少している。	小売業	食品スーパーマーケット
	AIによる自動作曲が進展し驚きを感じる一方、アーティスト制作とは異なる領域であり現時点で大きな影響は感じていない。国際的な協働が容易となる一方、著作権侵害時の負担増を懸念している。	サービス業	その他の技術サービス業
見通し	最低賃金の上昇、歯止めのかからない原材料価格の上昇、設備の老朽化。資金不足のため、どれも心配である。それに加えて紙媒体の需要の下落もあり、先行きが全く見通せない。	製造業	オフセット印刷業（紙に対するもの）
	物価の高騰、人件費の上昇など、経費の支出がかさむ中、請負工事の増加が見込めない状況である。よって、来期の業況は悪化するとの見通しと判断した。	建設業	一般土木建築工事業
	輸送費や保管料、支払手数料等の上昇により厳しい経営状況が続いた。これから12月の繁忙期に向け必要経費を確保できる価格交渉を行い、業績確保を目指す。	卸売業	生鮮魚介卸売業
	仕入単価の上昇、光熱費、運搬費が上昇する中、全国統一の小売価格を独自に変更できないため、粗利確保への不安がある。	小売業	鮮魚小売業
	売上が増えても人件費、燃料費、修繕費等の高騰により利益増は見通せない。	サービス業	ごみ収集運搬業

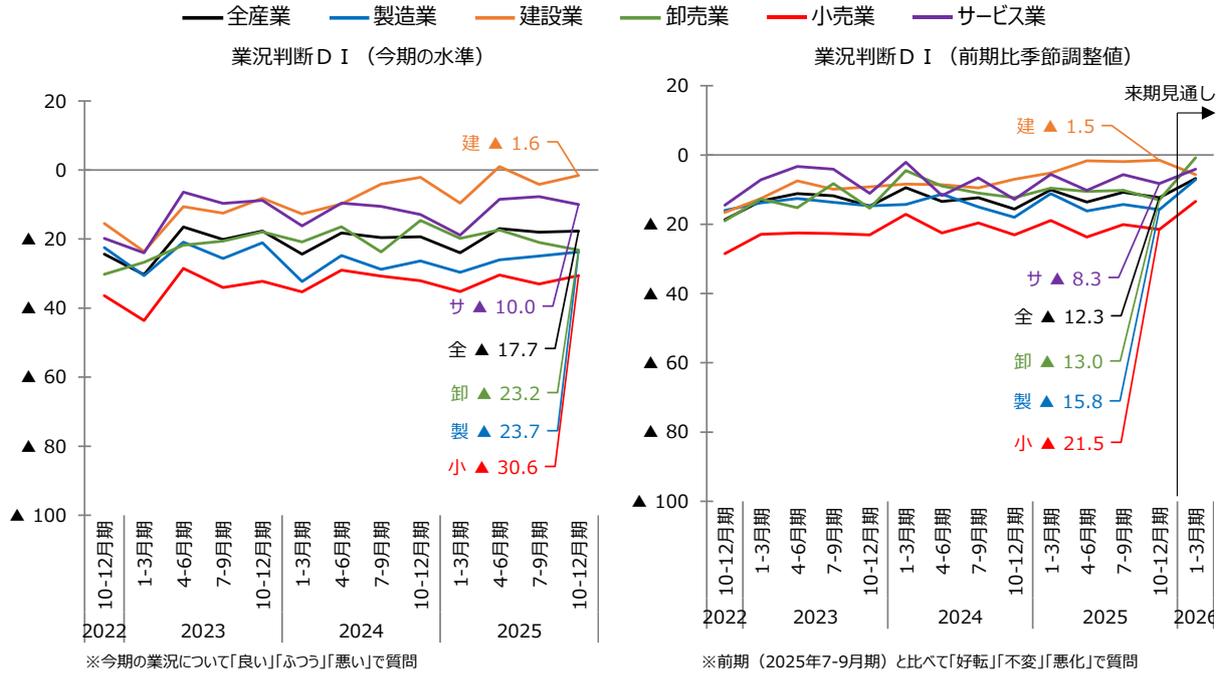
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 関東



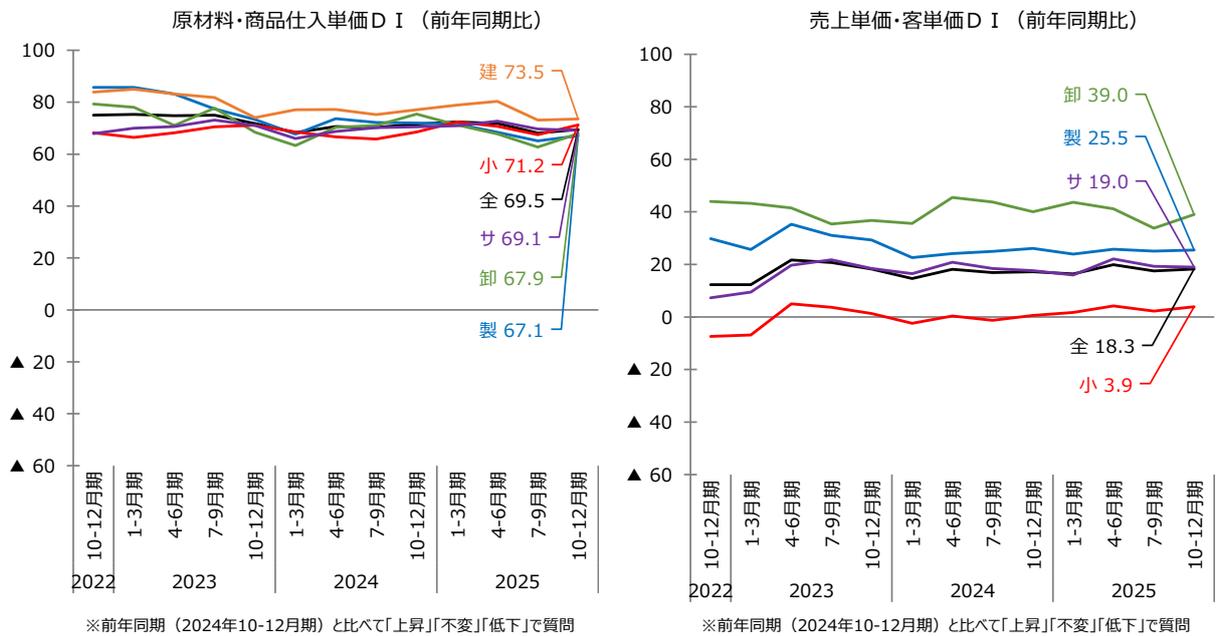
1. 業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年7-9月期）より0.3ポイント増の▲17.7と2期ぶりにやや上昇した。産業別にみると、建設業、小売業、製造業で上昇し、サービス業、卸売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.4ポイント増の69.5で3期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業、製造業、建設業で上昇し、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.8ポイント増の18.3と2期ぶりにやや上昇した。産業別にみると、卸売業、小売業、製造業で上昇し、サービス業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2025年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,838 有効回答企業数：17,901 有効回答率：95.0% うち、関東：4,859企業

※本資料の集計対象の都道府県は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県です。

第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 関東

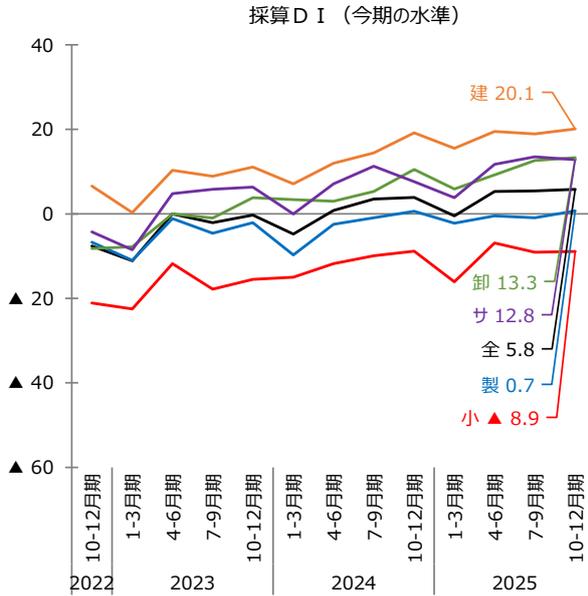


3. 採算

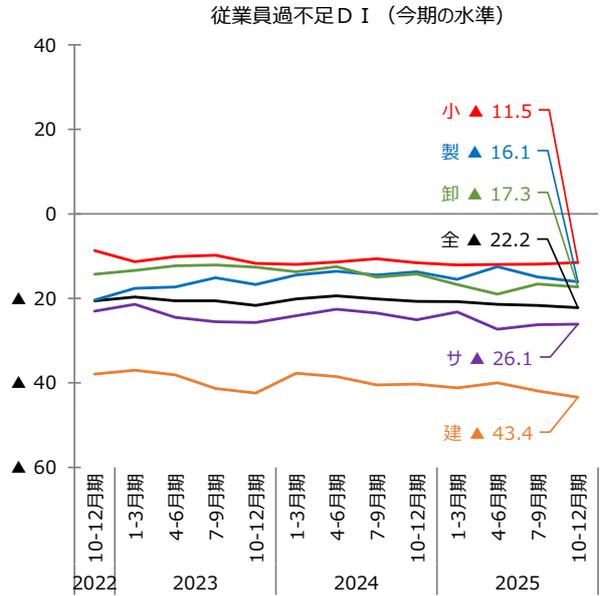
採算DIは、全産業で前期より0.4ポイント増の5.8と3期連続してやや上昇した。産業別にみると、製造業、建設業、卸売業、小売業で上昇し、サービス業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.5ポイント減の▲22.2と6期連続してやや低下となった。産業別にみると、小売業、サービス業で上昇し、建設業、製造業、卸売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 関東の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	アメリカ関税の影響、EV移行の停滞等から生産する金属ばね等、発注数量やタイミングの落差が大きい。その為、内示や予定、先をある程度見通してできる情報がギリギリまで入らず、材料や資材の発注や手配が遅れ納期が厳しい。	製造業 自動車部品・附属品製造業
	7月～9月にかけて暑さで仕事にならなかったが、10月からは稼働率が上がっている。引き続き、人手不足で納期に間に合わずため、事業主が休日も出勤している状況である。	建設業 型枠大工工事業
	大手通信販売会社へのサイバー攻撃の影響により取引先への商品提供が出来ず、売上が減少している。先行きの不安あり。	卸売業 事務用機械器具卸売業
	米仕入価格上昇・前年の物量不足で昨秋は前年価格より1.5～2倍の仕入単価であったため、今秋は数量確保が必要と感じた為、前年の3倍の在庫を確保した。その仕入資金が重みになっている。販売量も鈍い。	小売業 菓子小売業（製造小売）
	客単価・来店客数ともに増加しているにもかかわらず、それ以上の原材料費の高騰と人件費増加の影響から赤字となっている。	サービス業 食堂、レストラン（専門料理店を除く）
見通し	現在の作業量は問題ないが、先の需要（来年）は前半が低調予測であり、後半の需要を如何に取り込めるかが課題である。	製造業 発電機・電動機・その他の回転電気機械製造業
	新卒の求人を行っているが、3年連続で新卒が入ってこない状況で大変厳しい。また県工事では3年越しの工事が赤字になる見込みで全体の利益も厳しい状況が見込まれる。コストの見直しを行い利益の確保に努めていく。	建設業 一般土木建築工事業
	大手企業の参入などで売り方の変化、OAの活用など、販売の方法に大きな変化が考えられて、厳しい状況が予想される。	卸売業 その他の衣服卸売業
	従業員減による売上（利益）の減少に加え、人件費の増加により、経営は苦しくなると見通している。	小売業 ガソリンスタンド
	IT業界全体は好調を維持していると思うが、当社の主要顧客の経営状況が悪化しており、今後のシステム投資の動向が懸念される。	サービス業 受託開発ソフトウェア業

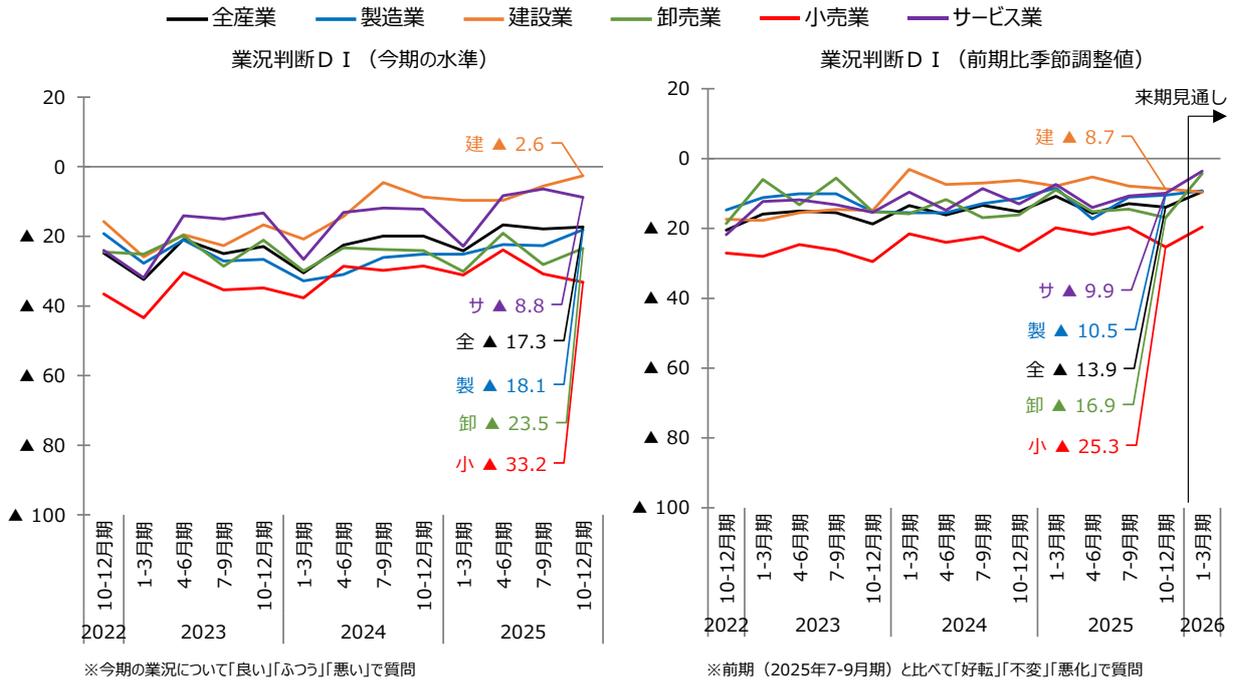
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 中部



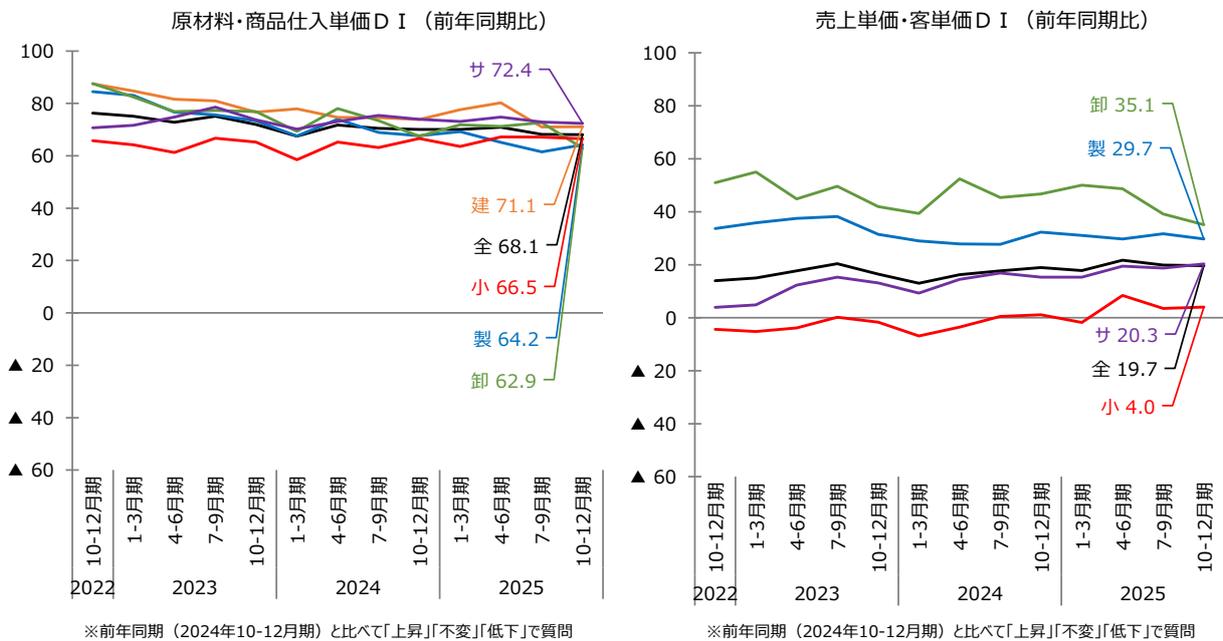
1. 業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年7-9月期）より0.6ポイント増の▲17.3と2期ぶりにやや上昇した。産業別にみると、製造業、卸売業、建設業で上昇し、サービス業、小売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.1ポイント減の68.1と2期連続してやや低下した。産業別にみると、製造業、建設業で上昇し、卸売業、小売業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.2ポイント減の19.7と2期連続してやや低下した。産業別にみると、サービス業、小売業で上昇し、卸売業、製造業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2025年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,838 有効回答企業数：17,901 有効回答率：95.0% うち、中部：2,259企業

※本資料の集計対象の都道府県は、富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県です。

第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 中部

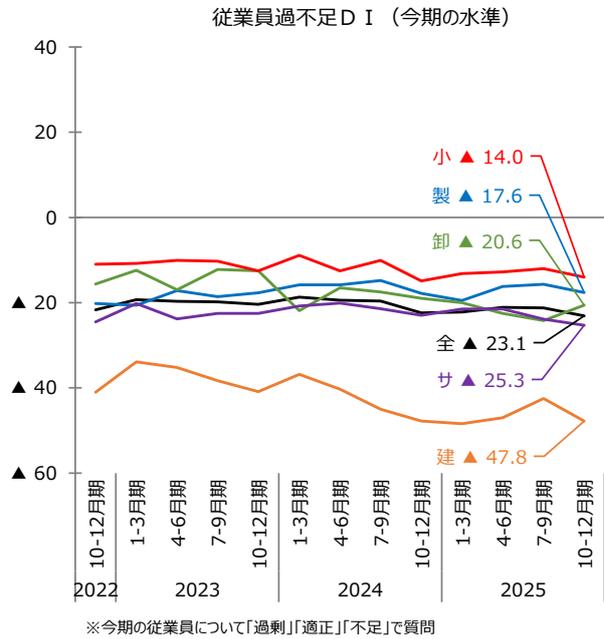
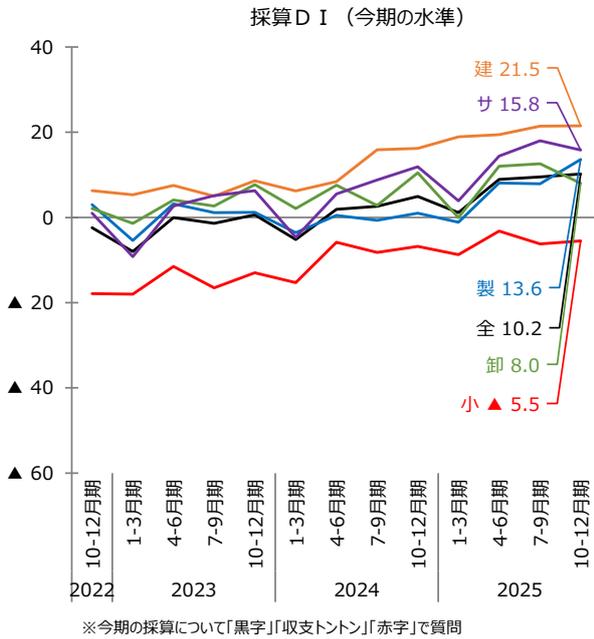


3. 採算

採算DIは、全産業で前期より0.7ポイント増の10.2と3期連続してやや上昇した。産業別にみると、製造業、小売業、建設業で上昇し、卸売業、サービス業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.9ポイント減の▲23.1と2期連続して低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、建設業、小売業、製造業、サービス業で低下した。



5. 中部の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	人件費を含め全てにわたる価格上昇が収益を圧迫している。サプライチェーンの工場間の製品価格は硬直化しており、インフレ志向の世情に困惑している。	製造業 プラスチック製造業
	今期は受注工事も増加し業況も回復傾向にあるが、人材不足もあり断わらざるを得ない依頼もある。元請としては短期間の効率的な工期も必要だと思うが、下請の負担が大きいと感じている。	建設業 鉄筋工事業
	引き合いは多いものの、卸量は減少傾向にある。新築物件の建築が少ないことが原因と考えられる。利益率も仕入れ高騰により、減少傾向にある。	卸売業 木材・竹材卸売業
	円安により、コーヒー豆など輸入品の仕入単価が上がり過ぎて経営を圧迫している	小売業 茶類小売業
	既存顧客の経費削減の影響で受注が減少しており、新規顧客の獲得も伸び悩んでいる。	サービス業 商業写真業
見直し	飲料や薬品に使われる充填機のノズルの注文が増えている。最も利益率の高い半導体製造装置部品の受注回復に期待したい。	製造業 他に分類されない生産用機械・同部品製造業
	現状は受注残も多少あり、今年の業績は順調であるが、来年以降の契約や引合い（見積り依頼）の状況は低調。この状況を反映して、請負単価も低下気味となっており、来年以降の業況に懸念がある。	建設業 板金工事業
	年度末の仕事の引き合いが例年より少ないと感じている。	卸売業 他に分類されないその他の卸売業
	酒類・飲料メーカーへのサイバー攻撃の問題が解決されておらず、年末にどのような影響や問題が発生するか不透明。	小売業 酒小売業
	企業の出張での宿泊は減ってしまったが、インバウンドが入ってきて、稼働率は徐々に上がりつつある。しかし、先が全くわからない状態。	サービス業 旅館、ホテル

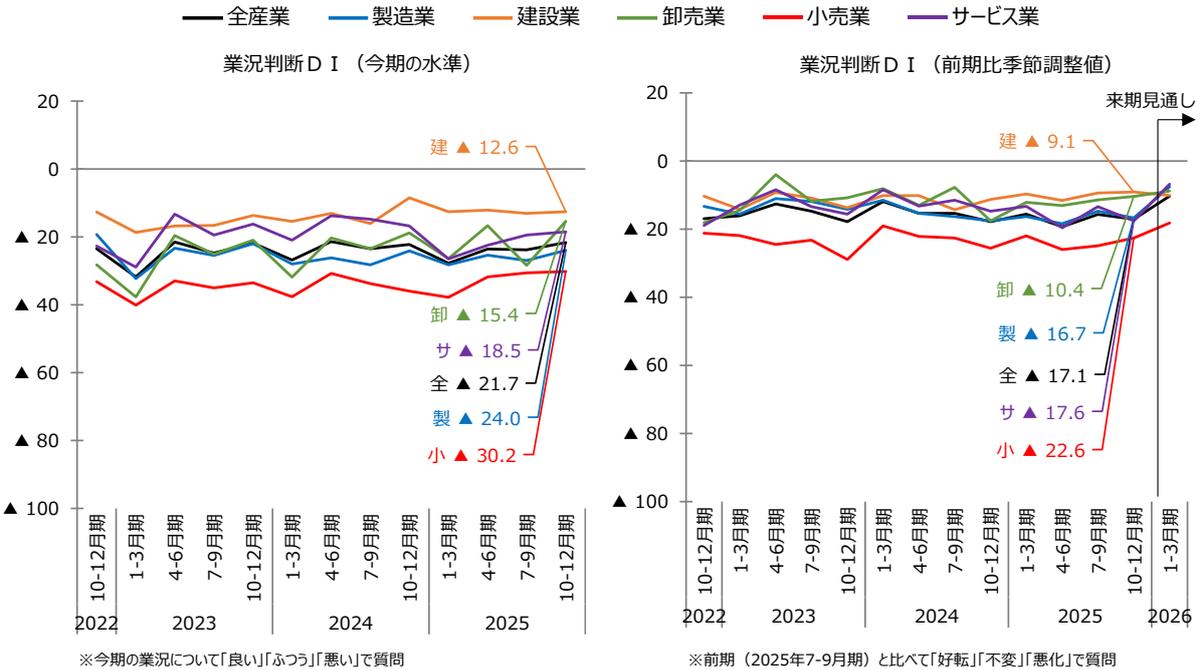
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 近畿



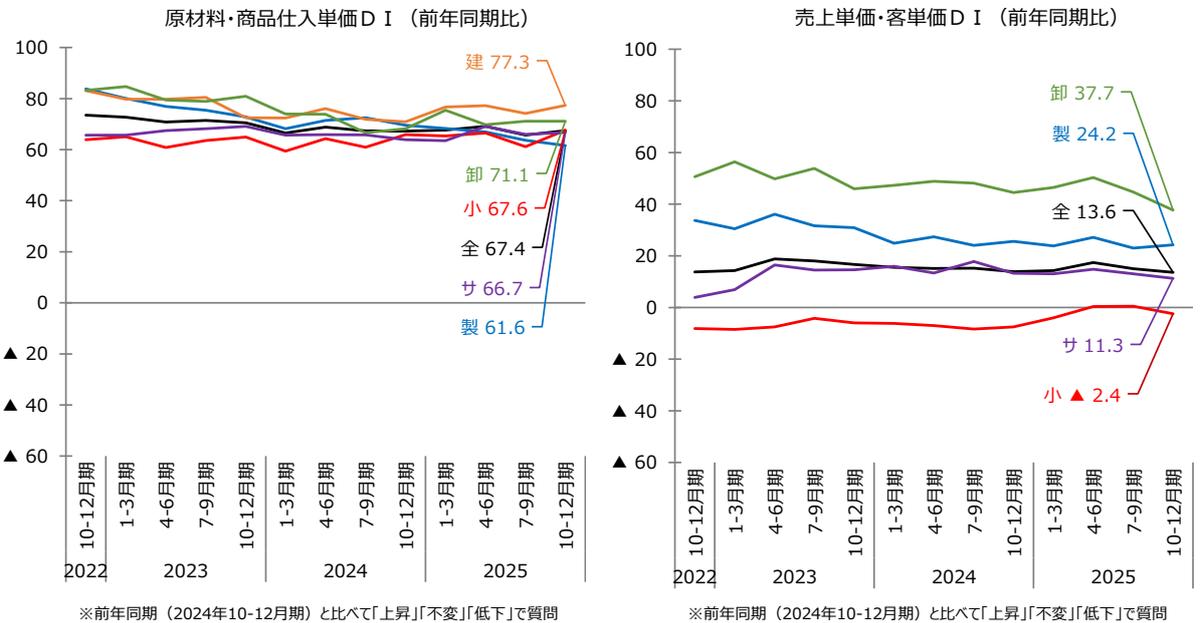
1. 業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年7-9月期）より2.1ポイント増の▲21.7と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.7ポイント増の67.4と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、建設業、サービス業で上昇し、卸売業で横ばい、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.4ポイント減の13.6と2期連続して低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、卸売業、小売業、サービス業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業
 今期の調査対象企業数：18,838 有効回答企業数：17,901 有効回答率：95.0% うち、近畿：2,537企業

※本資料の集計対象の都道府県は、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県です。

第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 近畿

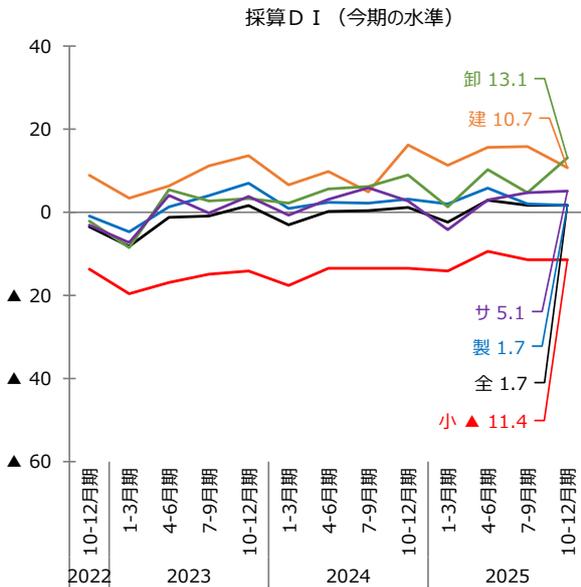


3. 採算

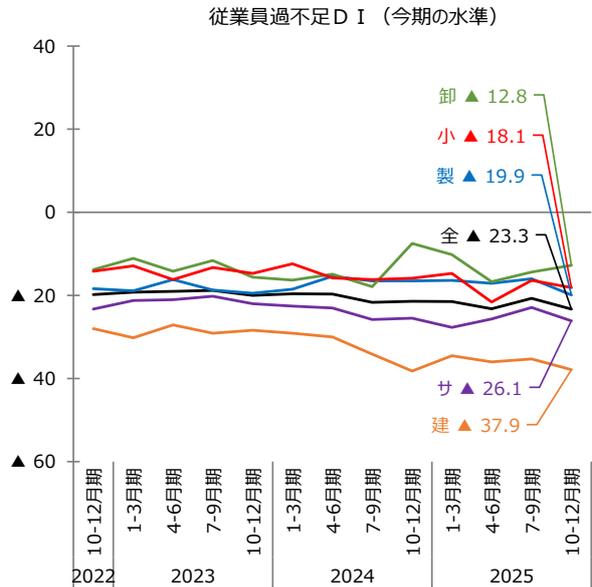
採算DIは、全産業で1.7と横ばいであった。産業別にみると、卸売業、サービス業で上昇し、小売業で横ばい、建設業、製造業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より2.6ポイント減の▲23.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、製造業、サービス業、建設業、小売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 近畿の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	各客先の受注計画が立てにくい。受注量の増減が大きく、短納期対応が多い。そのため生産効率が悪い。	製造業 アルミニウム・同合金プレス製品製造業
	法改正（建築基準法、アスベスト、トップランナーⅢ）により工程の長期化、複雑化が進み、人手不足に拍車がかかっている。大手の賃金上昇に小規模企業は対応しきれないため、採用にも悪影響が出ている。	建設業 一般電気工事業
	観光需要は回復傾向にあるものの、和紙業界では職人不足と生産縮小が続いており、当社でも安定供給に不安を抱えている。	卸売業 紙製品卸売業
	急激な抹茶ブームのため、生産農家が抹茶生産へ切り替え、煎茶の生産量が激減のため、日常使用のお茶の原価が昨年の3～4倍に値上がりしている。仕入すれば、価格転嫁できないため、売れ筋の商品仕入れが難しい。	小売業 茶類小売業
	AI検索が始まるなど、技術革新がものすごいスピードで進んでいる。それに応じて新サービスをする必要がある。	サービス業 パッケージソフトウェア業
見通し	米中貿易摩擦において、レアメタル関連に不安要素が拡大。半導体や装置関連の受注に大きな影響が懸念されている。中には好調な企業（取引先）もあり、受注の取りこぼしがなく、生産体制の見直しを行っている。	製造業 工業用プラスチック製品加工業
	新規参入業者による安値受注により競争の激化が一部であり、単価下落が気になる。	建設業 タイル工事業
	業績は概ね堅調に推移しているが、為替相場の変動幅が大きく、輸入品の仕入単価への影響が大きくなっている。今後の為替相場の推移によっては、業績悪化の要因となることを懸念している。	卸売業 その他の各種商品卸売業
	夏季に比べ秋～冬は例年のごとく売上げ額は落ちているが、去年より消費マインドは若干ながら上がっている。インバウンドの増加もあり、来期は昨年を上回る予想。	小売業 食品スーパーマーケット
	飲食物の消費税減税になれば自炊率が上がり、外食が減る。飲食店はますます不況になると思う。	サービス業 その他の専門料理店

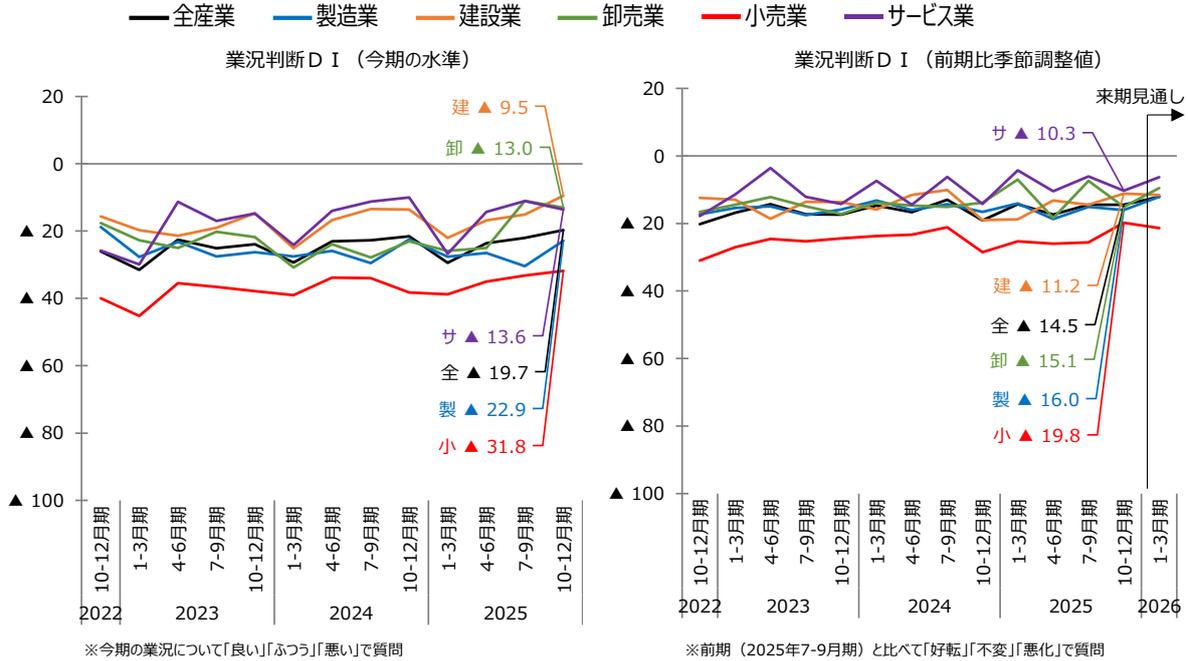
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 中国



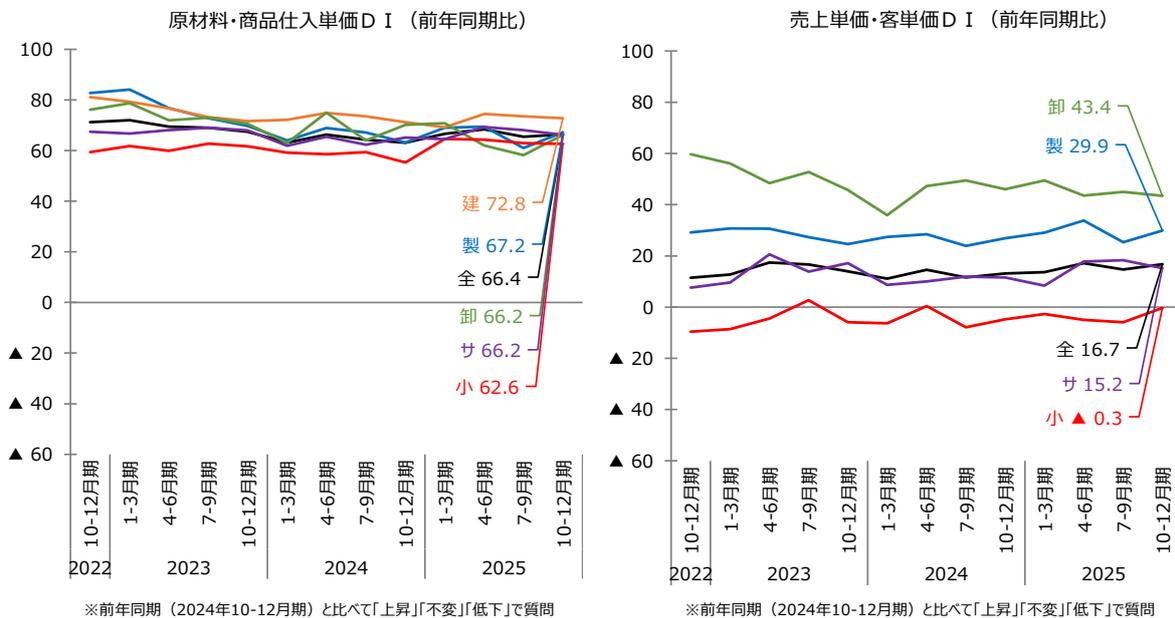
1. 業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年7-9月期）より2.3ポイント増の▲19.7と3期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、建設業、小売業で上昇し、サービス業、卸売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.9ポイント増の66.4と2期ぶりにやや上昇した。産業別にみると、卸売業、製造業で上昇し、サービス業、建設業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.0ポイント増の16.7と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、製造業で上昇し、サービス業、卸売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2025年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,838 有効回答企業数：17,901 有効回答率：95.0% うち、中国：1,638企業

※本資料の集計対象の都道府県は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県です。

第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 中国

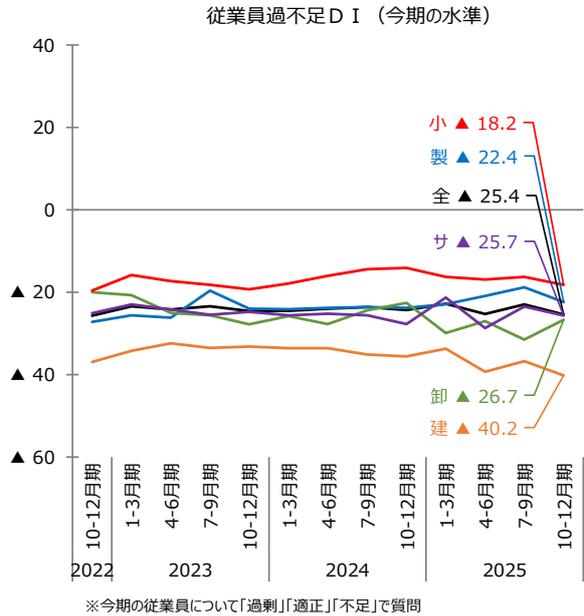
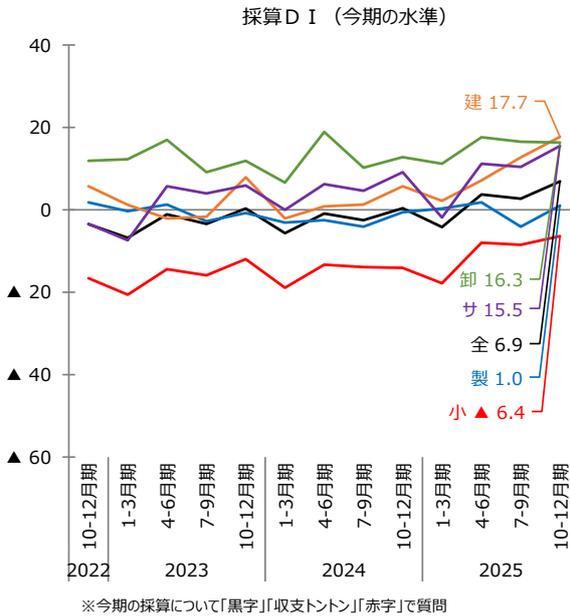


3. 採算

採算DIは、全産業で前期より4.2ポイント増の6.9と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、製造業、サービス業、建設業、小売業で上昇し、卸売業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より2.4ポイント減の▲25.4と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、製造業、建設業、サービス業、小売業で低下した。



5. 中国の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	発注品目および数量、新規引き合い・見積り依頼の減少。短納期による受注機会の消失と作業効率の悪化。	製造業 縫製機械製造業
	材料・人件費高騰により利益が残せない状況が続いている。木工事の方は、建築確認申請から工事に取り掛かるまで4～5ヶ月かかる状況である。そのため手待ち時間が増えた。	建設業 一般土木建築工事業
	天候異変の影響や、円安による海外からの原料の価格が高く、顧客の希望の価格での製造が出来ない。	卸売業 砂糖・味そ・しょう油卸売業
	気候も涼しくなり、紅葉日和も続いていることなどから売上が1.5倍に増えている。	小売業 菓子小売業（製造小売）
	11月よりメニューの価額の値上げを実施して売り上げは多少上向き。町商工会の商品券の実施で、その分売り上げが上がっている。	サービス業 日本料理店
見通し	状況は変わらず厳しさが長引いており、我慢の時期が続いている。2025年下期も現時点では厳しい見通しで、2026年上期に期待したいところではあるが、不透明である。	製造業 鉄道車両用部品製造業
	価格転嫁が比較的しやすい消費者からの直接受注を意識しているが、民間の需要自体が低調であり、B to Bの受注が中心になっている。その結果、思うように価格転嫁できず、来期は採算が悪化する見込みである。	建設業 塗装工事業（道路標示・区画線工事業を除く）
	引き合いは低調だが、値上げにより売上高は減っていない。物価上昇に伴う需要減少傾向は続くと思われ、今後の見通しが難しい状況である。人手不足も引き続きの課題。	卸売業 酒類卸売業
	年末に向けて需要が増加する見込みであるが、冬場は雪の影響で、客数の減少やそもそも会場に行けないことがあるため、冬場に出店できる販売先を増やす必要がある。	小売業 他に分類されない飲料品小売業
	短期的には好転しているものの、継続的に利益を出せる見通しではない。コスト削減も限界があるので単価交渉などのアプローチが必要。	サービス業 他に分類されないその他の生活関連サービス業

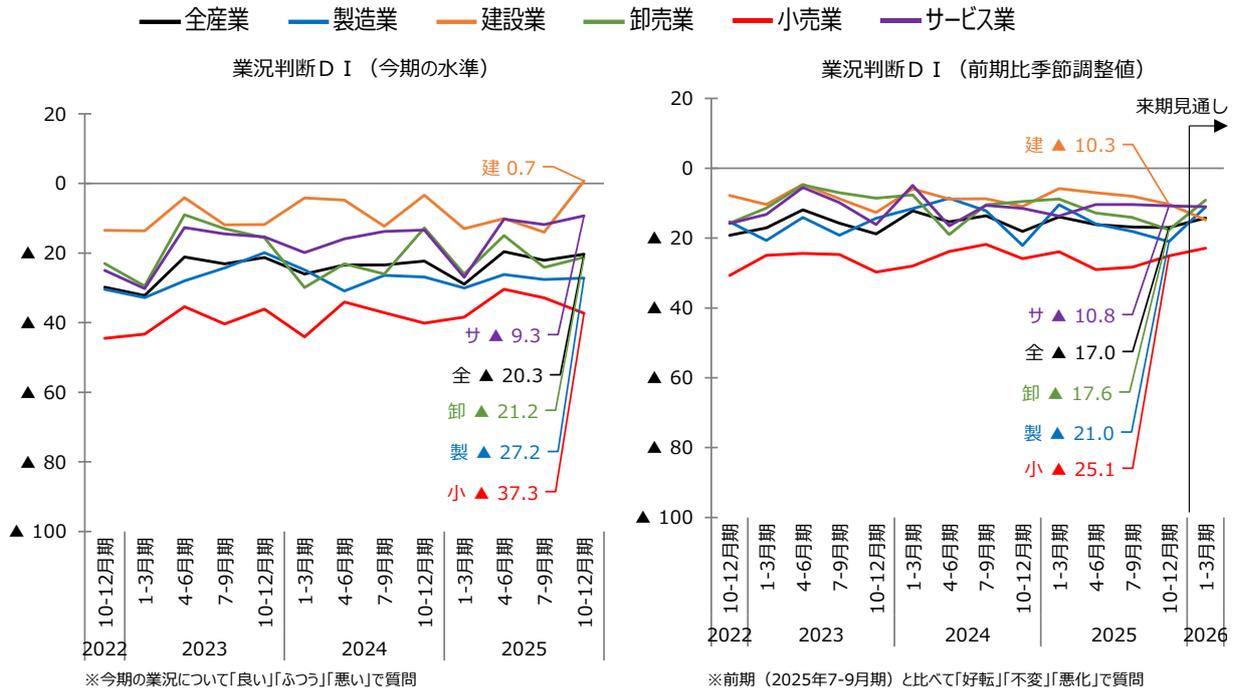
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 四国



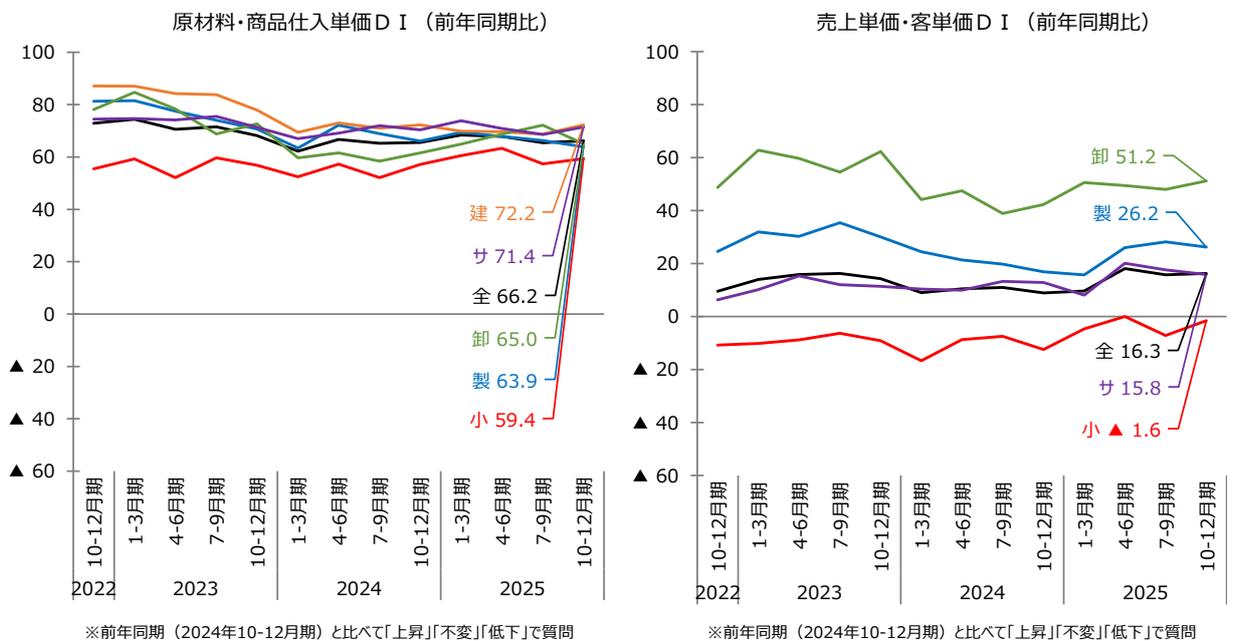
1. 業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年7-9月期）より1.8ポイント増の▲20.3と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、建設業、卸売業、サービス業、製造業で上昇し、小売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.8ポイント増の66.2と3期ぶりにやや上昇した。産業別にみると、建設業、サービス業、小売業で上昇し、卸売業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.6ポイント増の16.3と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、卸売業で上昇し、製造業、サービス業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業
 今期の調査対象企業数：18,838 有効回答企業数：17,901 有効回答率：95.0% うち、四国：1,279企業

※本資料の集計対象の都道府県は、徳島県、香川県、愛媛県、高知県です。

第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 四国

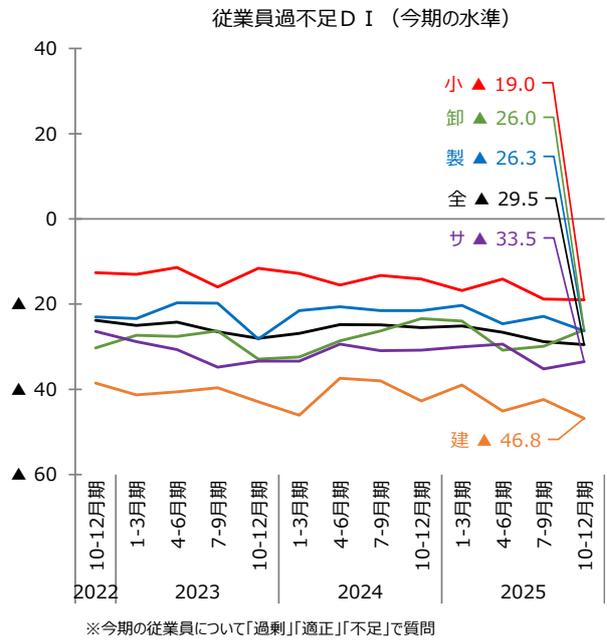
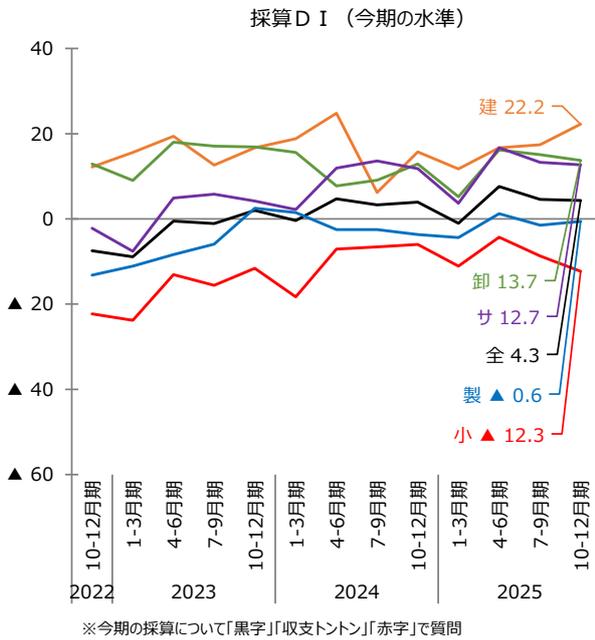


3. 採算

採算DIは、全産業で前期より0.3ポイント減の4.3と2期連続してやや低下した。産業別にみると、建設業、製造業で上昇し、小売業、卸売業、サービス業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.7ポイント減の▲29.5と3期連続してやや低下した。産業別にみると、卸売業、サービス業で上昇し、建設業、製造業、小売業で低下した。



5. 四国の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	消費が低迷している。さらに原材料の上昇、最低賃金の上昇とマイナス要素が続いており非常に厳しい。	製造業 段ボール製造業
	従業員・技術者不足による、引き合いに対して受注を断る状況が続いている。特に、設計業務と工事管理業務の人材が集まらない状況で、採用活動に苦慮している。	建設業 一般土木建築工事業
	商品を値上げせざるを得ない状況が収まらず、消費者の購買意欲が低下。売上はかなり厳しい状態となっている。	卸売業 輸送用機械器具卸売業（自動車を除く）
	残暑が続く、冬物の出足がかなり遅れた。期待はない。一般家庭からの需要は買い控えが続いていると感じる。	小売業 電気機械器具小売業（中古品を除く）
	気候の変化等の影響が宿泊客にも及んでおり特にお遍路さんの宿泊が例年に比べ少なくなっている。また、秋の連休などで家族連れのお客さんも減っており、売上高が減少するなど先行きへの不安を感じている。	サービス業 旅館、ホテル
見通し	案件減少、受注単価低下、金利負担の増加等先行きが不透明である。	製造業 鉄骨製造業
	現状では、引き合い等は活発であるが、人員の不足が一番の問題となっている。	建設業 建築工事業（木造建築工事業を除く）
	短期的には大きな変化はないが、長期的には国内のタオルを加工する工場が減り、納期の問題や価格上昇が考えられる。他の商材の取り扱い等も検討する必要性を感じている。	卸売業 その他の衣服卸売業
	最低賃金の上昇が経営状況に大きく影響することが見込まれる。人件費分の上昇を販売価格へ転嫁したいと考えるが、安売り店への消費流出が懸念され業況は厳しくなると見込んでいる。	小売業 食品スーパーマーケット
	従業員の確保が難しく、外国人材に頼らざるを得ない状況で、それに係る経費の負担増、最低賃金上昇による人件費増大も負担が大きい。価格転嫁もうまく進めることができていないのが現状で、厳しい状況が続くと思う。	サービス業 自動車一般整備業

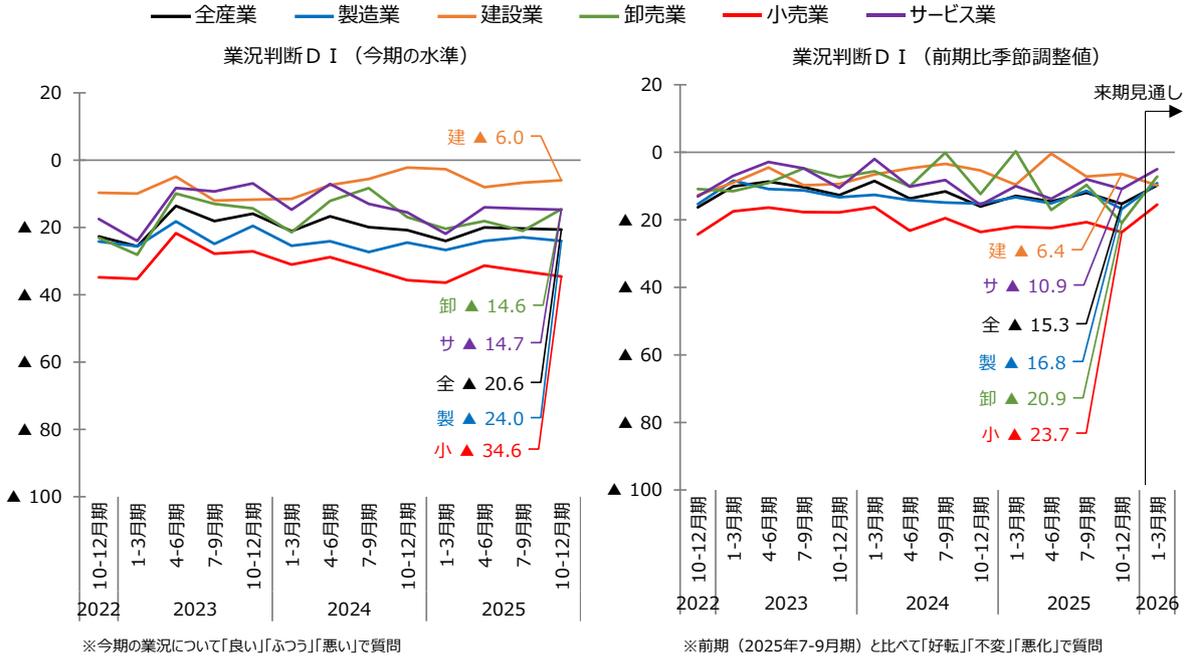
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 九州・沖縄



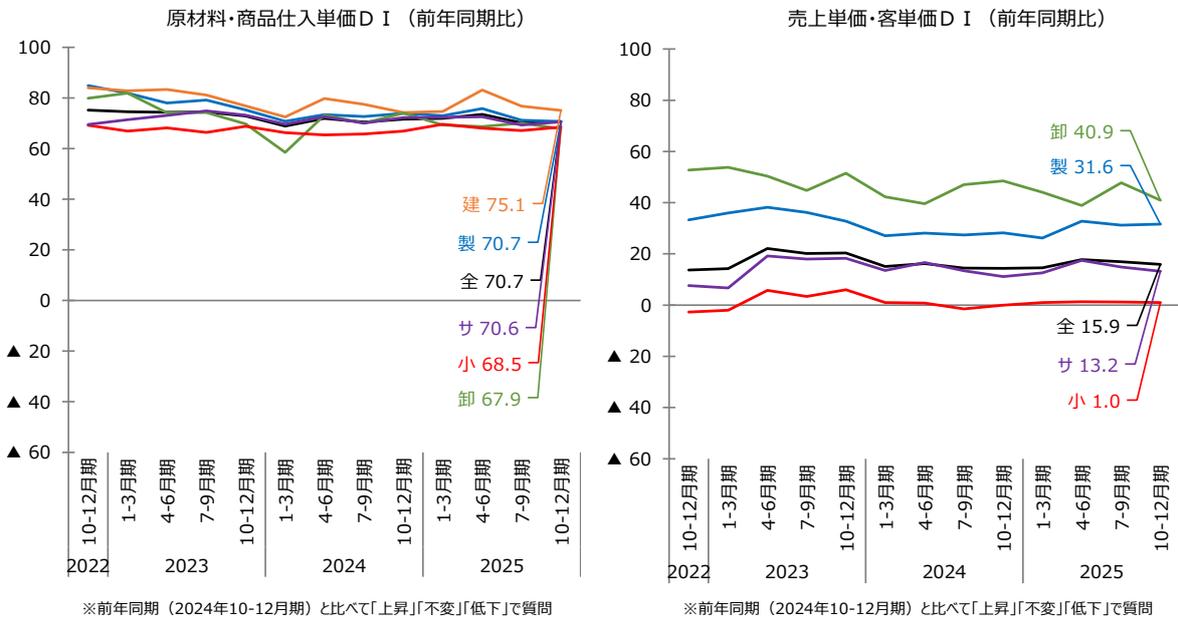
1. 業況感

九州・沖縄地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年7-9月期）より0.3ポイント減の▲20.6と2期連続してやや低下した。産業別にみると、卸売業、建設業で上昇し、小売業、製造業、サービス業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.5ポイント増の70.7と2期ぶりにやや上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業で上昇し、卸売業、建設業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.0ポイント減の15.9と2期連続して低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、卸売業、サービス業、小売業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,838 有効回答企業数：17,901 有効回答率：95.0% うち、九州・沖縄：2,782企業

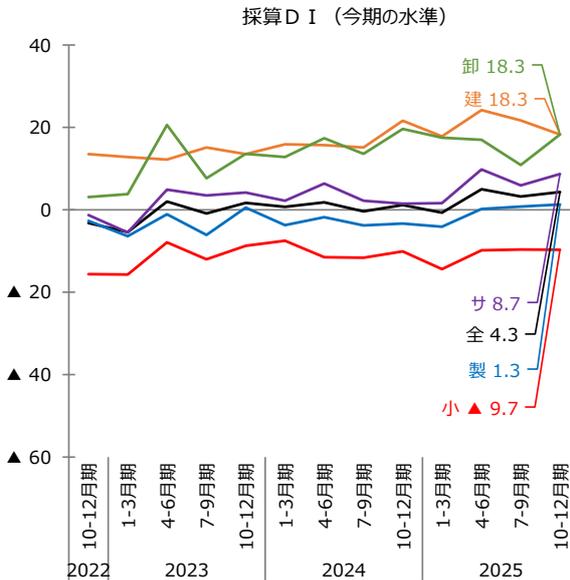
※本資料の集計対象の都道府県は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県です。

3. 採算

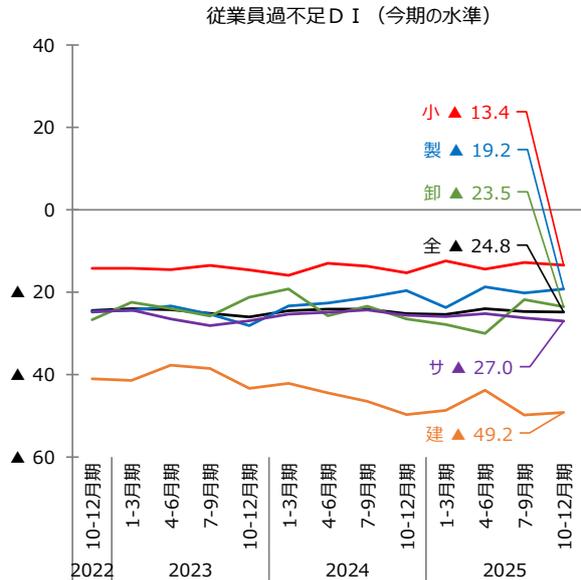
採算DIは、全産業で前期より1.1ポイント増の4.3と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、製造業で上昇し、建設業、小売業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.1ポイント減の▲24.8と2期連続してやや低下した。産業別にみると、製造業、建設業で上昇し、卸売業、サービス業、小売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 九州・沖縄の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	公共事業の受注の増加に伴い、好転に転じている。	製造業	工業用ゴム製品製造業
	引き合いは安定しており例年並みだが、各種経費の値上がりにより、利益が確保できる案件の見極めが重要になっている。	建設業	さく井工事業
	観光客の増加に伴い、主要取引先のホテルや飲食店への販売量が増加している。また、物価高騰で仕入単価も上昇しているが、販売価格へ転嫁できた商品もあり、その分売上也伸びてきている。	卸売業	米麦卸売業
	葬儀の規模が小さくなったことで、葬儀屋さんからの受注が減少し、売上也減少している。	小売業	花・植木小売業
	新たに船舶の底洗い業務を大手造船会社から受注したことで、取引先が拡大。売上・利益ともに上昇し、業況は好転している。	サービス業	他に分類されない洗濯・理容・美容・浴場業
見通し	各地出荷量の減少が続く中、更なる原材料の値上りや賃金コストの上昇に伴う経費の増加が懸念される。	製造業	生コンクリート製造業
	人材確保難の状況で人件費を抑えると求人に対する応募がなくなるという懸念がある中、工事受注の有無にかかわらず、人件費は毎年増えていくので、今後経営を圧迫していくことが想定される。	建設業	建築工事業 (木造建築工事業を除く)
	仕入単価は前年同期の約1.3倍と上昇。それに伴い販売価格、売上は増加。しかし、需要が低下傾向にあり利幅を自社で吸収し対応。年明けの全体的な見通しは、備蓄米の買戻しの有無など要件が出そろう、業況が収斂していく予測。	卸売業	米麦卸売業
	茶葉の異常な高騰により、商品が製造できなくなっている。来年の動向も見通しが立たない。	小売業	茶類小売業
	慢性的な人手不足、現在在籍している従業員の平均年齢の上昇、仕入単価の上昇等あらゆる面で先行きに不安がある。	サービス業	一般貨物自動車運送業 (特別積合せ貨物運送業を除く)

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)